

**山門水源の森探索&  
渡岸寺十一面観音拝観**

**8月例会  
報 告**

日 時：8月2日（金）8：00～18：30

行き先：山門水源の森と

渡岸寺十一面観音（滋賀県長浜市）

参加者：28名

幹 事：鈴木、豊島

8月2日（金）心配していた天候にも恵まれ、山門湿原探索と渡岸寺十一面観音立像拝観に出かけました。バスの中では十一面観音に関するクイズを楽しみながら、長浜市高月町にある渡岸寺に着きました。渡岸寺では、ご住職の説明をお聞きし、国宝十一面観音立像を拝観しました。奈良時代、聖武天皇の勅願により建立したと伝えられており、優美なプロポーションに沿って髪と衣が流れるように表現されています。観音堂の中ほどに置かれていて背後からも拝観できます。

渡岸寺庵で早めの昼食をとり、滋賀県長浜市西浅井町にある山門水源の森へ行きました。この森は、炭や薪を作るために利用されていた里山で、起源が約3万年前にさかのぼる山門湿原があります。

日本海側と太平洋側の生物が入り混じって多様な生物が生息しており、「日本の重要湿地500」「水源の森100選」に選定されています。また滋賀県条例で「山門湿原ミツガシワ等生育保護区」に指定されています。



森では2班に分かれ、ボランティアガイドに案内いただき、溪流沿いを湿原まで約2時間探索しました。四季折々の湿原の魅力をお聞きし、また訪れてみたいと思いました。

（豊島 すみ子）

お二人の新入会々員さんに感想をお寄せいただきました。

8月例会でバスによる日帰り旅行の初参加。高の原を8時に出発し、国宝十一面観音は全国で7体のみで「古いお寺は？」「渡岸寺の像の高さは？」のクイズもあり、和やかな内に長浜市高月町渡岸寺に到着、早速観音堂の中央に鎮座召します本尊を前に、特徴をご住職より拝聴し参拝しました。

光背がない為、後ろに回れば後一面-暴悪大笑相の顔、像高約六尺五寸一木調成で中心に穴を開け安定し、地震にも耐えたそうです。特に両耳朶に大きな鼓胴式耳飾り、腰から下のひねり曲がり具合が優美で女性的でした。

昼食後、山門水源の森に着き、約2時間の探索に出発、色々な植物・動物の説明で「笹ゆり」の保護増殖に鹿が増え食害に困っているとのこと。

この特徴の一つはブナの南限、アカガシの北限。北の雪椿と南の藪椿が同じ場所に自生していることで、感動したのは「ハッコウトンボ」「モリアオガエル」が見れたことです。大変勉強になりました 次回も参加希望致します。  
（田矢恵造）

八月例会のタイトルに魅せられて参加。バスの中ではクイズ仕立て国宝七体の十一面観音の認識を深め、高月町の観音堂へ向かいました。渡岸寺観音堂では十一面観音本面の左右各々の一面を耳の後ろに大きく彫出す珍しいタイプに注目し、住職の案内で背後からも拝観。

昼から山門水源の森へ移動。ガイドさんに沢道を辿り尾根道に戻るコースで案内いただき、炭窯跡や様々な動植物の現状をお聞きしました。溪流の底が砂地の為、小動物が容易に観察でき、遊歩道から直接サンショウウオまで見つけることができました。思わずガイドさんに交雑種は居ませんかと聞いてしまいましたが、ここまで捨てに来る人はいませんよとの答に納得。（カモシカが減って鹿が増えている）笹百合を鹿から守る為ネットが設置されています。今後、毒草が異常繁殖することも考えられます。鹿・猪対策として一般的には捕獲のプロの育成やジビエ料理の推進も考えられているようですが、本当は狼の導入のほうがいいのかも？川の補修や草刈りも大変ですが、防災面からも里山は人が育てなければダメなのですね。現地の皆様有り難うございました。  
（辻本正則）